

東京大学（本郷）農学部 2 号館改修（建築）設計業務（基本設計）
設計仕様説明書

1. 設計基本方針

（1）共通事項

- ・設計仕様説明書に記載されていない事項は、参考資料の『建築設計基準（令和 7 年改定）（国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課）』および『建築設備設計基準（令和 6 年改定）（国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課）』による。ただし、大学施設の設計として適さない、または疑義がある内容については適宜監督職員と協議すること。
- ・建築基準法適合状況調査において指摘された事項の是正方法について行政協議をすること。
- ・各室の仕上げ等は標準モデル設計仕様（資料 1）を標準とすること。
- ・建築物の省エネルギー性能指標（BEI）0.5 以下を目標とする。~~BEI 算定業務は設備設計が行うこととし、建築設計と設備設計の業務範囲は資料 2 とすること。~~
- ・工法・機器等の選定については、コスト・施工効率・省エネルギー性・メンテナンス性等を比較検討の上、合理的な計画をすること。
- ・本学の ZEB 設計ガイドライン（<https://www.u-tokyo.ac.jp/content/400240718.pdf>）に基づき省エネルギー計画を行うこと。ZEB 指標（BEI 等）に反映されない技術であっても、施工後に利用者・管理者が効果を実感する技術は積極的な導入を目指すこと。
- ・屋外環境を整備する際は、本郷地区キャンパス屋外環境整備計画基本方針に則り、各種ガイドラインを参照して設計すること。
- ・全館禁煙とすること。

（2）建築関係

①動線・平面計画

- ・居室は閉鎖的な空間とならないよう、可能な限り出入口・間仕切り等にガラスを設ける計画とすること。
- ・可能な限り、共用部には利用者の交流が生み出されるようなコミュニケーションスペースを設けること。
- ・誰もが使用しやすい平面計画とすること。
- ・外部出入口は原則、段差をつけない。段差をつける場合は車イス用スロープおよび手すりを設置すること。
- ・主要な外部出入口は有効幅を十分に取り、人の通行・物品の搬出入に適したものとすること。
- ・トイレは管理者等からヒアリングを実施し、計画建物の利用実態を考慮して、適切な内容と個数を計画すること。

②断面計画

- ・滞在時間の長い事務室等の天井高さは可能な限り 2.6m 以上とすること。

③内部仕上げ計画

- ・教育・研究活動にふさわしい色彩計画案を提案すること。

④外部仕上げ計画

- ・歴史的空間を構成する建築物の改修工事においては、可能な限り創建時の復元を目指すこと。
- ・整備されるキャンパスにおけるエリアコード（キャンパスごとに定められた『キャンパス計画要綱』の運用に関する学内手続きや体制を規定するため、重要度に応じてⅠからⅣに分けて指定されたキャンパスの区分。詳細は監督職員に確認すること。）を考慮し、キャンパスの特性および周辺施設との調和を重視した計画となるよう、外部空間の設計についてキャンパス計画室担当室員と協議すること。
- ・構内道路側外壁への機器や構築物の設置は原則、行わない計画とすること。
- ・強化ガラスは自然爆裂する材料であることを認識し、高所で使用する場合は、落下防止等の対策を計画すること。
- ・建具新設・更新の際には、網戸を設置することで、可能な限り、自然換気を用いた計画とすること。
- ・耐用年数を考慮し、鉄部の塗装仕上げは避け、原則、溶融亜鉛メッキを標準とすること。ただし、外観に大きく影響をもたらす部分についてはリン酸処理の追加も検討すること。
- ・スクラッチタイル等の高圧水洗は、原則、塩酸等の薬剤は不使用とし、お湯による洗浄とすること。
- ・砂岩の改修は風合いを残すため、原則、脆弱部撤去のみとし、新規材料による補修は最小限とすること。

⑤環境配慮計画

- ・Low-E 複層ガラスの採用については、方位によって「断熱タイプ」、「遮熱タイプ」の使い分けを行い、最大限建物の断熱性能を向上させること。
- ・自然採光を確保するとともに、自然換気および自然排煙をとること。

⑥外構計画

- ・自転車置き場の設置台数や仕様については管理者等にヒアリングのうえ適切に計画すること。
- ・建物整備に際して既存植栽は可能な限り伐採を回避し、やむを得ず伐採・剪定をする場合には計画の早い段階で担当職員と協議すること。

（３）電気設備関係

①電灯設備計画

- ・照明器具は原則、高効率・省エネルギーに配慮した露出型 LED 器具を選定すること。
- ・JIS 等の基準に則り適切な照度を設定し、保守率を考慮し過度な照度とならないよう配慮すること。
- ・廊下やトイレの照明は人感センサー制御とすること。

②幹線設備計画

- ・研究・実験室系統の幹線ケーブルは、増設や更新がしやすい配置計画とすること。
- ・幹線の配線太さは、必要に応じて需要率を考慮して選定すること。

③受変電設備計画

- ・受変電設備は原則、屋内に設置すること。地下階に設置する場合は浸水対策をすること。
- ・高圧真空遮断機（VCB）は、引き出し型を標準とすること。
- ・変圧器は高効率・省エネルギーに配慮した乾式トップランナー型を選定すること。
- ・特高受変電設備がある敷地の２次変電設備には、原則として進相コンデンサを設けないこと。進

相コンデンサ及び直列リアクトルの設置については、負荷に応じて力率改善・高調波対策等を考慮して必要性を検討すること。

④情報通信設備計画

- ・東京大学情報ネットワークシステム(UTNET)利用ガイドラインに則った配線計画とすること。
- ・情報ラック・HUBBOX・パッチパネル・配線・配線器具等は工事で施工するが、HUBなどのネットワーク機器については別途工事とすること。

⑤自動火災報知設備計画

- ・消防法に基づき感知器等を設置し、受信機は病院などの不特定多数の者が宿泊する場合を除き、原則P型とすること。
- ・警備員が常駐しない建物の受信機は、鍵を掛けない部屋又は廊下等から見える場所に設置すること。

⑥誘導支援設備計画

- ・女子トイレ、多目的トイレ（個別ブース）等には、呼出ボタンを設置すること。

（４）機械設備関係

①共通

- ・配管は原則、金属管ではなく耐食性、耐震性、施工性に優れた樹脂管とすること。
- ・ガス設備は、実験機器以外は、原則、設置しないこと。
- ・特殊な自動制御は原則、使用を避けること。

②空気調和・換気設備計画

- ・空調方式は原則、電気式個別空調方式（EHP）とすること。
- ・個別空調方式では、可能な限り室内機を設置する室の直近に室外機を設けること。
- ・個別空調方式では、可能な限り系統を細かく分け、可能であれば全て個別ペア化すること。
- ・実験室の空調は、空調負荷計算時に実験機器の発熱を過大に見積もらないように注意すること。
- ・居室の換気方式は原則、全熱交換器とすること。
- ・空調室内機や全熱交換器は原則、天井カセット形とし、機器更新時に天井解体を必要としない仕様とすること。

③給排水衛生設備計画

- ・埋設給水管は水道配水用ポリエチレン管（電気融着接合）とすること。
- ~~・給水用水槽は原則、設置しないこと。ただし、病院や実験棟、RI施設等の逆流時の汚染リスクが高い建物はその限りではない。~~
- ・建物内の排水は分流とし、屋外は合流とする（雨水は建築設計範囲）。
- ・電気温水器は、多量の洗い物や多目的トイレなどの特別な理由がない限り設置しないこと。

2. 個別設計計画

（１）建物規模及び計画概要

- ・建物規模：農学部2号館 R4-1 延べ床面積9,382㎡程度
- ・計画概要：別紙図面（資料2）に示す。
- ・建物用途：大学

(2) 建築関係

○外部関連

- ・ 創建時の格子窓の意匠を再現する方法の検討を行うこと。

○共用部関連

- ・ 車椅子使用者用トイレの扉に開閉ボタンを設けること。
- ・ 玄関は夜間自動施錠とする。
- ・ 昇降機は1基を設置（機械室レス）し、昇降路については既存スラブに開口を設ける必要があるため、既存躯体に対する構造検討を行うこと。なお、昇降機はバリアフリー対応とする。

(3) 電気設備関係

○電気全般

- ・ 将来性を考慮したEPSの整備について検討すること。

○受変電設備

- ・ I期工事範囲に新たな電気室を整備し、既設電気室へ送電する計画とすること。

○発電設備

- ・ 実験設備用の非常用発電設備について検討すること。

○自動火災報知設備

- ・ 既設の本郷キャンパス防災監視システムに接続する計画とすること。

○屋外通信設備

- ・ 既設分線盤より構内交換設備幹線を引き込む計画とすること。
- ・ 農学部3号館4階HUBサイト室より光ファイバーケーブルを引き込む計画とすること。

○その他

- ・ III期に渡る改修工事となるため、電源及び通信設備の仮設計画を検討すること。
- ・ 農学部2号館より電源等を供給している施設について、電源及び通信設備の移行について検討すること。

(4) 機械設備関係

○空気調和・換気設備

- ・ B1階に低温室を計画すること。
- ・ B1階に動物飼育室を計画すること。
- ・ 各所に設置されるドラフトチャンバーの排気ダクトルートを検討すること。
- ・ 2~4階のドラフトチャンバーを複数台設置する部屋では、外調機による給気を検討すること。

○給排水衛生設備

- ・ 給水は高置水槽方式で計画すること。
- ・ 一部実験排水用に実験排水槽の設置を計画すること。
- ・ 屋外給水管は共同溝分岐からの更新を計画すること。

○消火設備

- ・ 消防法令を遵守して、消火設備を計画すること。
- ・ 連結散水設備はドライエリアによる設置免除を検討すること。

(5) 想定スケジュール

想定スケジュール

2026 年度										2027 年度													
6 月	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4 月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
プロボ										基本設計（Ⅰ～Ⅲ期）													
										Ⅰ期実施設計													
										入札												Ⅰ期工事（約6ヶ月）	

想定スケジュールを参考にし、工事スケジュールを計画すること。

(6) その他

- ・設計の実施に際し、東京大学キャンパス計画室担当室員へ適宜確認のうえ進めること。
- ・設計仕様説明書の細部については監督職員の指示に従うこと。
- ・設計進捗について管理者等に説明を行いながら業務を実施すること（月に2回程度）。
- ・設備設計事務所と協力し、各室のヒアリングシート様式を作成のうえ、管理者等が記載したヒアリングシートを取りまとめ、ヒアリングを行うこと。
- ~~・建築設計事務所と協力し、ヒアリング内容を設計に反映した各室の電気及び機械設備機器配置及び仕様について管理者等の承認を得ること。~~
- ・~~改修履歴（参考資料（資料4））をもとに、改修工事の設計に必要な既存建築物の設計図書を復元するための実測等の調査を実施すること。~~

標準モデル設計仕様

作成：施設部計画課
2024年10月ver

本資料は、本学の設計における標準的な仕様を用途ごとにあらかじめ定めることで、建物の省エネルギー性能を確保しつつ、一般的な諸室における建物間の仕様の差やコスト面での過大設計を防ぎ、また、ヒアリング項目の抑制による実施設計期間の短縮・迅速化を図ることを目的としてまとめたものである。

今後運用を進めていく中で、必要に応じて内容の見直しを行うものとする。

	研究室	実験室	講義室	事務室	会議室	倉庫	トイレ	廊下
前提条件、類似用途等	学生室、院生室、秘書室	特殊実験室（クリーンルーム、動物室）は除く	天井高さ3.0m以下を標準					
<建築>								
床	・タイルカーペット	・ビニル床シート ・耐薬品性ビニル床シート（ウエットの場合）	・ビニル床シート（耐久性に配慮したもの） ・ビニル床タイル（耐久性に配慮したもの）	・タイルカーペット ・（特に必要な場合）OAフロア	・タイルカーペット ・（特に必要な場合）OAフロア	・ビニル床シート	・ビニル床シート	・ビニル床シート
幅木	・ビニル幅木	・ビニル幅木 ・ビニル床シート巻き上げ	・ビニル幅木	・ビニル幅木	・ビニル幅木	・ビニル幅木	・ビニル幅木	・ビニル幅木
壁	・石こうボード+EP塗装 ・コンクリート下地+EP塗装	・石こうボード+EP塗装 ・コンクリート下地+EP塗装 ・ケイ酸カルシウム板+EP塗装	・石こうボード+EP塗装 ・コンクリート下地+EP塗装	・石こうボード+EP塗装 ・コンクリート下地+EP塗装	・石こうボード+EP塗装 ・コンクリート下地+EP塗装	・石こうボード素地仕上 ・コンクリート下地素地仕上	・化粧ケイカル板	・石こうボード+EP塗装 ・コンクリート下地+EP塗装
天井	・化粧石こうボード	・直天仕上+EP塗装	・岩綿吸音板	・化粧石こうボード	・岩綿吸音板	・直天仕上	・化粧石こうボード	・直天仕上
内部建具	・軽量鋼製建具 ・額入り（透明ガラス） ・外（廊下側）開き	・軽量鋼製建具 ・額入り（透明ガラス） ・鋼製建具（気密性に配慮が必要な場合） ・外（廊下側）開き	・軽量鋼製建具 ・額入り（透明ガラス） ・鋼製建具（防音性能に配慮が必要な場合） ・外（廊下側）開き	・軽量鋼製建具 ・額入り（透明ガラス） ・外（廊下側）開き	・軽量鋼製建具 ・額入り（透明ガラス） ・外（廊下側）開き	・軽量鋼製建具 ・外（廊下側）開き	・間仕切ブースは男女共に天井まで立上げ及び巾木ありタイプ ・ブース内に荷物掛け用フック等設置	ー
外部建具	・アルミ製 ・複層ガラス（Low-e）（遮熱タイプと断熱タイプを方位等で使い分け） ・網戸	・アルミ製 ・複層ガラス（Low-e）（遮熱タイプと断熱タイプを方位等で使い分け） ・網戸	・アルミ製 ・複層ガラス（Low-e）（遮熱タイプと断熱タイプを方位等で使い分け） ・網戸	・アルミ製 ・複層ガラス（Low-e）（遮熱タイプと断熱タイプを方位等で使い分け） ・網戸	・アルミ製 ・複層ガラス（Low-e）（遮熱タイプと断熱タイプを方位等で使い分け） ・網戸	・アルミ製 ・複層ガラス（Low-e）（遮熱タイプと断熱タイプを方位等で使い分け）	・アルミ製 ・複層ガラス（Low-e）（遮熱タイプと断熱タイプを方位等で使い分け）	・アルミ製 ・複層ガラス（Low-e）（遮熱タイプと断熱タイプを方位等で使い分け） ・網戸
断熱材（外壁・屋上面）	・t50	・t50	・t50	・t50	・t50	・不要	・不要	・t50
カーテンボックス	・設置	・設置	・設置	・設置	・設置	・不要	・不要	・不要
その他（共通）	・造り付け家具は予算に余裕がある場合と部局予算による要望がある場合のみ設置							
<電気>								
照明	・基準照度500lx、直付6,500lm相当/台	・基準照度500lx、直付6,500lm相当/台	・基準照度500lx、直付6,500lm相当/台	・基準照度500lx、直付6,500lm相当/台	・基準照度500lx、直付6,500lm相当/台	・基準照度100lx	・基準照度100lx ・人感センサー	・基準照度100lx ・人感センサー
分電盤（単相電源）	・居室内：150VA/㎡ ・電力量計付ホーム分電盤	・居室内：200VA/㎡ ・電力量計付	・居室内：100VA/㎡ ・電力量計付ホーム分電盤	・居室内：100VA/㎡ ・電力量計付ホーム分電盤	・居室内：100VA/㎡ ・電力量計付ホーム分電盤	・居室内なし	・居室内なし	・居室内なし
分電盤（三相電源）	・なし	・居室内：5kW ・電力量計付	・なし	・なし	・なし	・なし	・なし	・なし
コンセント	・壁面：1ヶ所/3m、3ヶ所/回路	・壁面：1ヶ所/2m、2ヶ所/回路	・壁面：1ヶ所/3m、3ヶ所/回路	・壁面：1ヶ所/3m、3ヶ所/回路	・壁面：1ヶ所/3m、3ヶ所/回路	・壁面：1ヶ所/5m、3ヶ所/回路	・ブース内に1ヶ所、手洗い場1ヶ所	・壁面：1ヶ所/15m、1フロア/回路
有線LAN	・出入口壁面に1口1ヶ所	・出入口壁面に1口1ヶ所	・出入口or教卓付近壁面に1口1ヶ所	・出入口壁面に1口1ヶ所	・出入口壁面に1口1ヶ所	・なし	・なし	・なし
無線LAN（AP別途）	・出入口壁面に1口1ヶ所	・出入口壁面に1口1ヶ所	・出入口or教卓付近壁面に1口1ヶ所	・出入口壁面に1口1ヶ所	・出入口壁面に1口1ヶ所	・なし	・なし	・なし
電話	・出入口壁面に1口1ヶ所	・出入口壁面に1口1ヶ所	・出入口or教卓付近壁面に1口1ヶ所	・出入口壁面に端子盤（5P/30㎡程度）を	・出入口壁面に1口1ヶ所	・なし	・なし	・なし
テレビ	・なし	・なし	・なし	・なし	・なし	・なし	・なし	・なし
<機械>								
空調	・電気式エアコン（天井カセット型） ・150W/㎡(西面)、120W/㎡(南面) 110W/㎡(東面)、105W/㎡(北面) ・集中リモコン（タッチパネル式）	・電気式エアコン（天井カセット型） ・240W/㎡(西面)、210W/㎡(南面) 200W/㎡(東面)、195W/㎡(北面) 実験機器発熱を考慮 ・集中リモコン（タッチパネル式）	・電気式エアコン（天井カセット型） ・255W/㎡(西面)、225W/㎡(南面) 215W/㎡(東面)、210W/㎡(北面) ・集中リモコン（タッチパネル式）	・電気式エアコン（天井カセット型） ・135W/㎡(西面)、105W/㎡(南面) 95W/㎡(東面)、90W/㎡(北面) ・集中リモコン（タッチパネル式）	・電気式エアコン（天井カセット型） ・175W/㎡(西面)、145W/㎡(南面) 135W/㎡(東面)、130W/㎡(北面) ・集中リモコン（タッチパネル式）	なし	なし	なし
換気	・全熱交換器 ・1.5回/h	・全熱交換器 ・1.5回/h（実験環境を考慮する）	・全熱交換器 ・7.5回/h	・全熱交換器 ・1.5回/h	・全熱交換器 ・5.0回/h	・排気ファン ・5.0回/h	・排気ファン ・10回/h	なし
衛生	・各室には手洗い、流し台は設置しない ・共有部に整備	・実験用途で希望があった場合に整備 ・将来用排水は各室整備	なし	・各室には手洗い、流し台は設置しない ・共有部に整備	なし	なし	・大便器はフラッシュタンク式（クイックタンク式） ・手洗いは自動水栓（給湯無し）	なし
都市ガス	なし	・実験用途で希望があった場合に整備	なし	なし	なし	なし	なし	なし

標準モデル設計仕様 別冊資料（設計事務所向け）

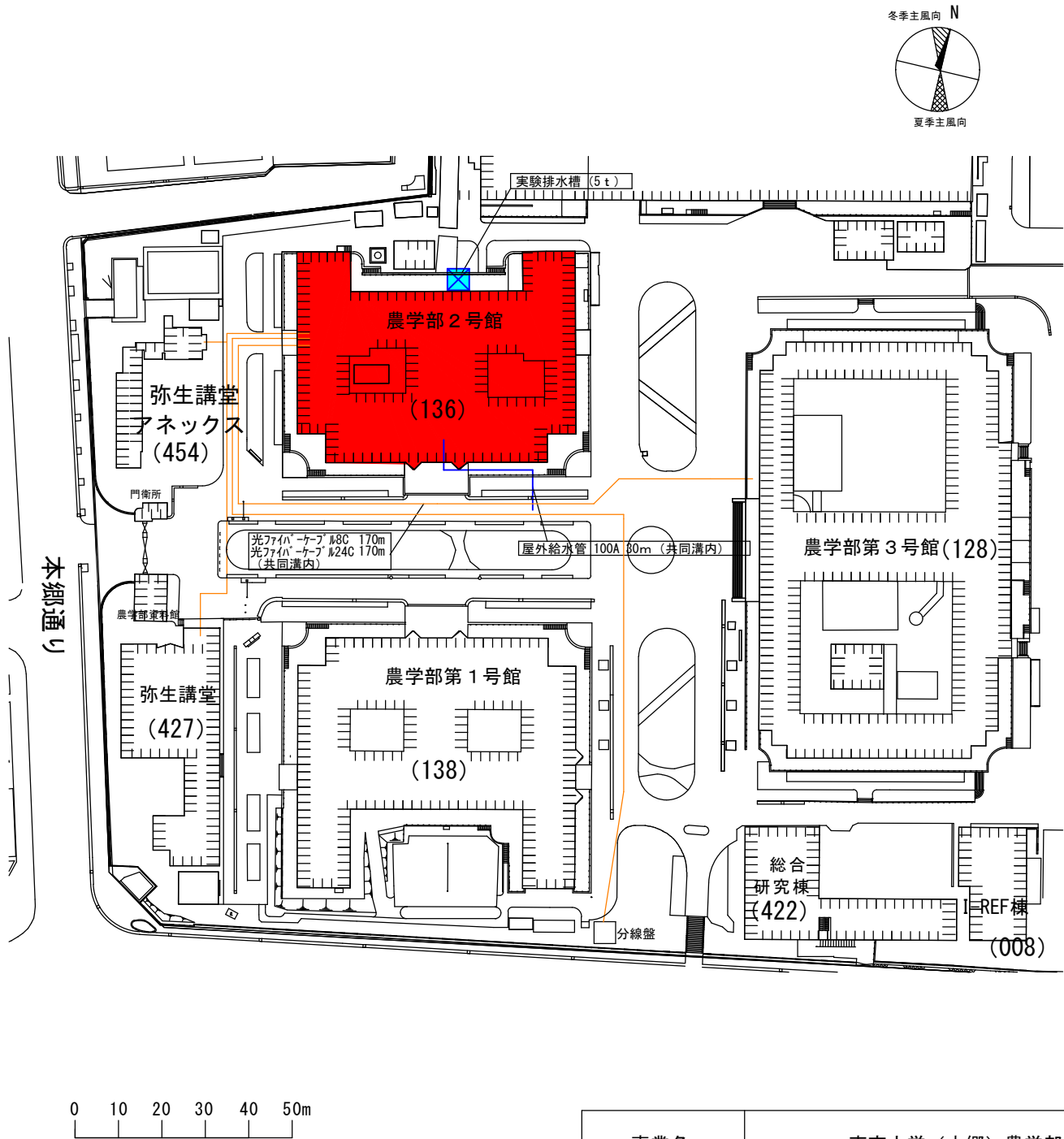
○標準モデル設計仕様で定める空調設備の能力計算上の前提条件等は次によるものとする。

- ※A 表に記載の各室冷房空調能力[W/㎡]、換気量[回/h]は目安を示す。各室形状、窓面積、人員数、空調方式等を考慮し負荷計算により算出する。居室の換気量基準は30㎡/人として計算する。
- 高効率機種種の選定については次の基準で行う。24時間稼働の室：高効率最高機種、 1 日 8 時間・ 1 月 2 0 日程度稼働の室：成績係数(APF)2015省エネ基準値クリア機種、左記以下の稼働率の室：指定なし
- ※B 実験室空調では、下記の係数や条件を用いて空調負荷計算時に実験機器の発熱を過大に見積もらないように注意する。
- ①実験機器からの発熱量は、常時稼働の場合は定格消費電力(kVA)の50%、常時稼働でない場合は30%として計算する。（※定格消費電力(kVA)は定格消費電流(A)×電圧(V)にて算出）
- ②ドラフトチャンバーなどの局所排気による外気負荷は計算に見込まない。
- これらを踏まえても冷房能力が250W/㎡を超える場合は、負荷増大の特殊要因を確認し、問題がないことを確認した上で、特殊要因分の能力を減らすようにする。
- ビル管法の対象となる特定建築物の仕様は標準モデルとは別途とする。加湿は個別を基本とする。

○標準モデル設計仕様を採用する場合の照明器具、エアコン、集中リモコン、大便器の型式等を参考として下表のように定める。

参考型式・商品名

	研究室	実験室	講義室	事務室	会議室	倉庫	トイレ	廊下
照明	LSS1-4-65	LSS1-4-65	LSS1-4-65	LSS1-4-65	LSS1-4-65	LSS1-4-65	LRS1-05	LSS1-4-65
電力量計 （エネルギー計測ユニット）	EcoMonitor（三菱電機） エネルギーモニタ（パナソニック）	EcoMonitor（三菱電機） エネルギーモニタ（パナソニック）	EcoMonitor（三菱電機） エネルギーモニタ（パナソニック）	EcoMonitor（三菱電機） エネルギーモニタ（パナソニック）	EcoMonitor（三菱電機） エネルギーモニタ（パナソニック）	-	-	-
電気式エアコン(マルチ)	RXYP__FC(ダイキン工業) PUHY-GP__DMG7(三菱電機) RAS-AP__SG2(日立)	同左	同左	同左	同左	-	-	-
電気式エアコン(個別)	SZRC__BY(ダイキン工業) PLZ-ZRMP__SE(三菱電機) RCI-GP__RGH3(日立)	同左	同左	同左	同左	-	-	-
集中リモコン	インテリジ ェントタッチマネジ ー(ダイキン工業) AE-200J・電力計測器付（三菱電機） セントラステーションEX・料金按分ソフト付(日立)	同左	同左	同左	同左	-	-	-
大便器	-	-	-	-	-	-	CFS498BC(TOTO) BC-P110SM(LIXIL)	-



建物関係凡例

凡 例	内 容
	将来とも利用する建物
	上記以外の建物
	要求建物

特殊工事関係凡例

凡例	特殊工事項目	数量等	備考
	情報通信線路	光ファイバーケーブル 124C (既設管路共同溝内) 170m 光ファイバーケーブル 18C (既設管路共同溝内) 170m	
	屋外通信線路	EM-CCPO. 5-100P (既設管路共同溝内) 分線盤～農学部2号館 245m EM-CCPO. 5-30P 農学部2号館～弥生講堂アネックス 30m 農学部2号館～弥生講堂 100m	
	屋外給水管	共同溝内 100A 30m (共同溝内より分岐)	
	実験排水槽	FRP 5t	

事業名

東京大学（本郷）農学部 2 号館改修

配置図

1/1000

面 積 表

階数	(改修前)			(改修後)		
	面積	補助対象区分		面積	補助対象区分	
		01 大学教育・研究施設	09 大学設備室等		01 大学教育・研究施設	09 大学設備室等
地階	891	876	15	891	826	65
1 階	907	907	0	907	907	0
2 階	918	918	0	918	918	0
3 階	923	923	0	923	923	0
4 階	67	0	67	0	0	0
	3,706 (3,700)	3,624	82	3,639 (3,630)	3,574	65

特殊工事関係凡例

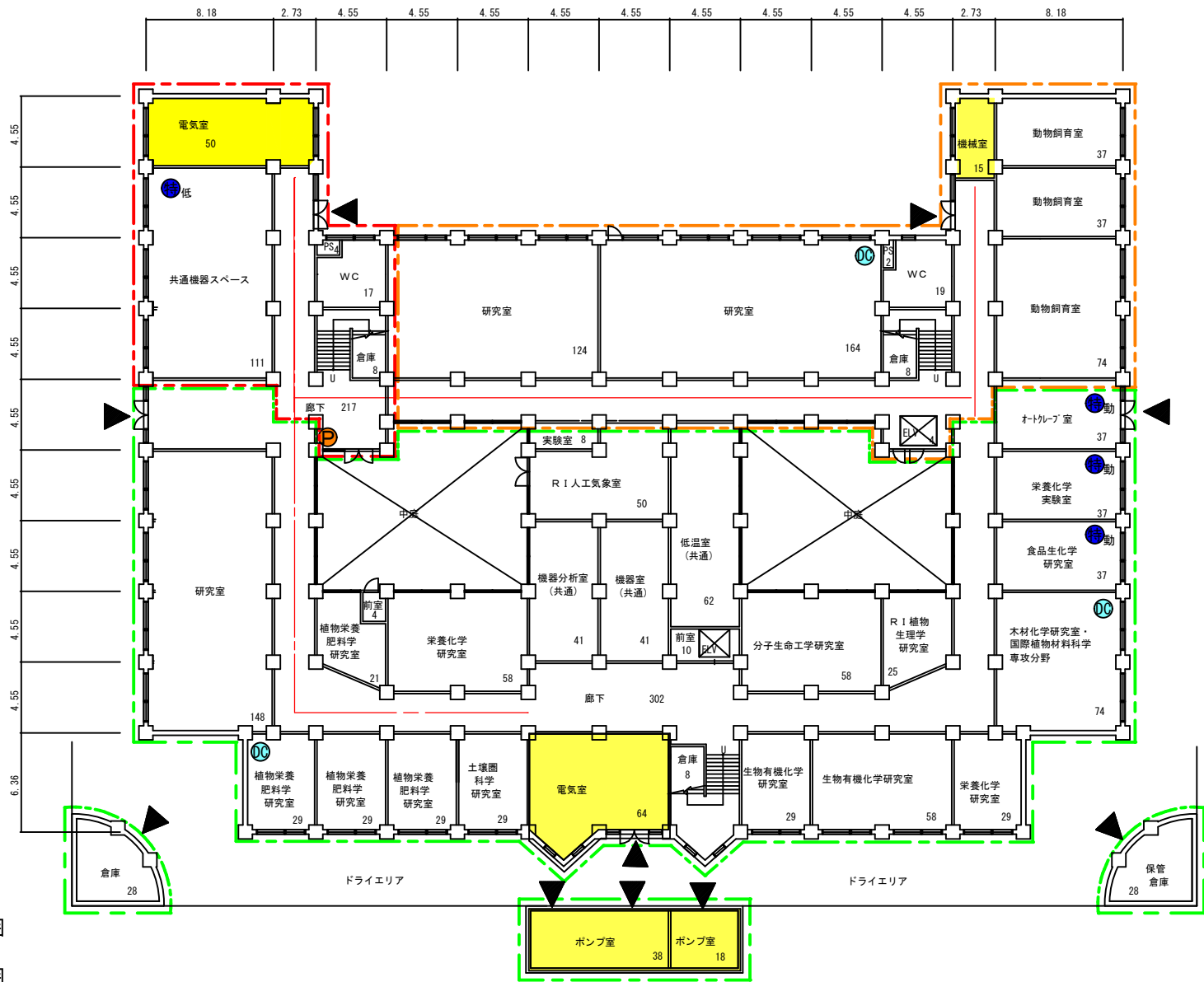
凡例	特殊工事項目	単位	数 量 等					
			地階	1 階	2 階	3 階	4 階	計
0A	0Aフロア	m ²		461	98			559
A	放送設備	式		1				
P	情報機器収納ラック	箇所	1	1	1	1		4
DC	ドラフトチャンパー	台	3	8	14	9	4	38
特低	低温室	m ²	111					111
特助	動物飼育室	m ²	111					111
特外	外調機	m ²			124	166	68	358
	高架水槽	基					2	2
		式						
	ケーブルラック	m	87	92	91	91		361



- I 期範囲
- II 期範囲
- III 期範囲

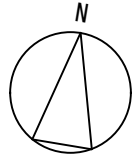
農学部2号館地階平面図 2,320㎡

事業名	東京大学（本郷）農学部2号館改修	地階平面図（改修前）	S=1/400
-----	------------------	------------	---------



農学部2号館地階平面図 2,320㎡

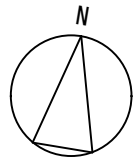
事業名	東京大学（本郷）農学部2号館改修	地階平面図（改修後）	S=1/400
-----	------------------	------------	---------



 : I 期範圍
 : II 期範圍
 : III 期範圍

農学部2号館1階平面図 2,340m²

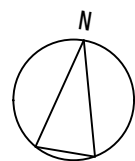
事業名	東京大学（本郷）農学部2号館改修	1階平面図（改修前）	S=1/400
-----	------------------	------------	---------



- : I 期範囲
- : II 期範囲
- : III 期範囲

農学部2号館1階平面図 2,340㎡

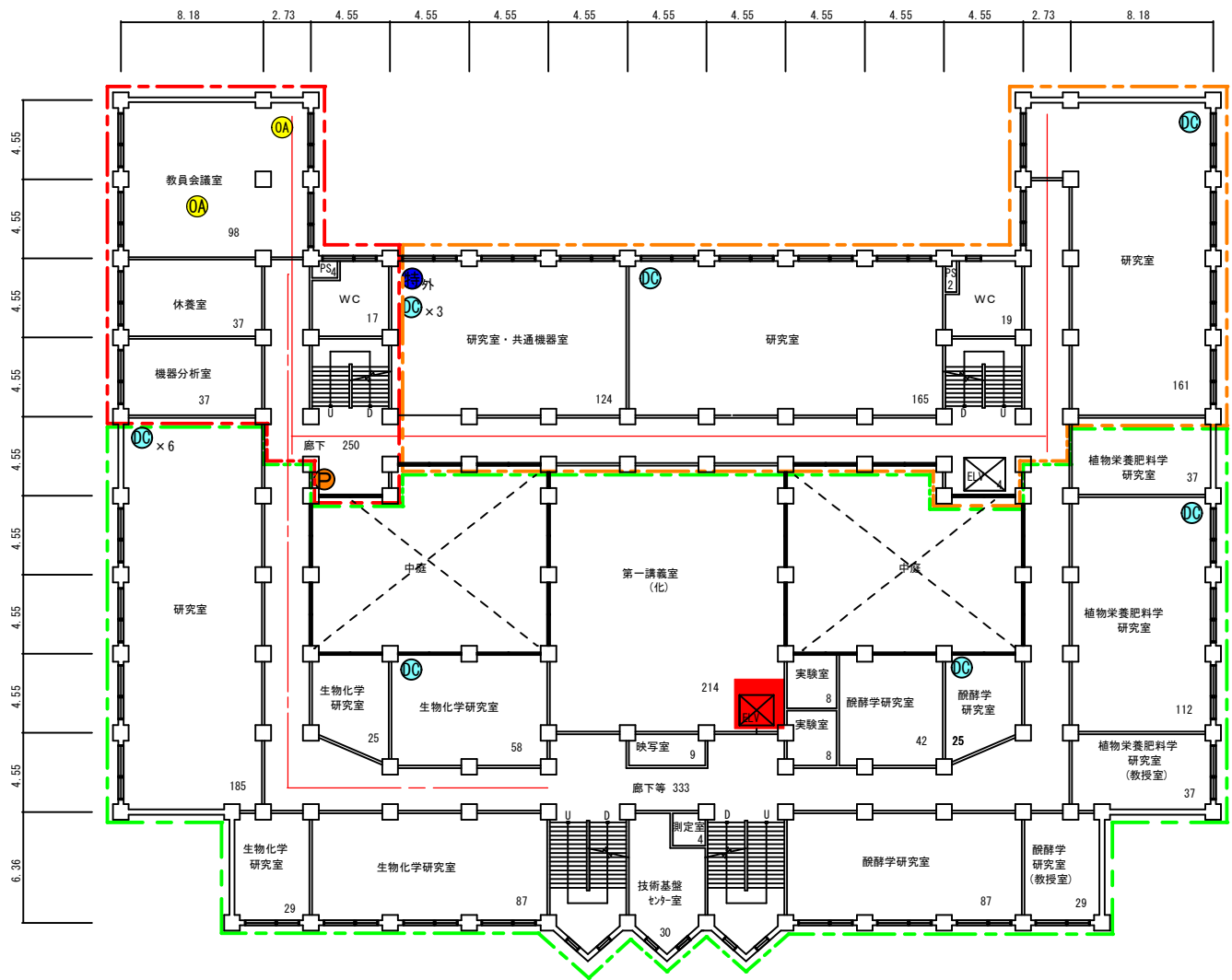
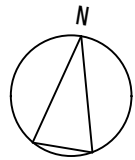
事業名	東京大学（本郷）農学部2号館改修	1階平面図（改修後）	S=1/400
-----	------------------	------------	---------



- I 期範囲
- II 期範囲
- III 期範囲

農学部2号館2階平面図 2,277㎡

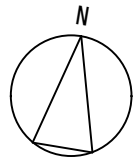
事業名	東京大学（本郷）農学部2号館改修	2階平面図（改修前）	S=1/400
-----	------------------	------------	---------



- : I 期範囲
- : II 期範囲
- : III 期範囲

農学部2号館2階平面図 2,277㎡

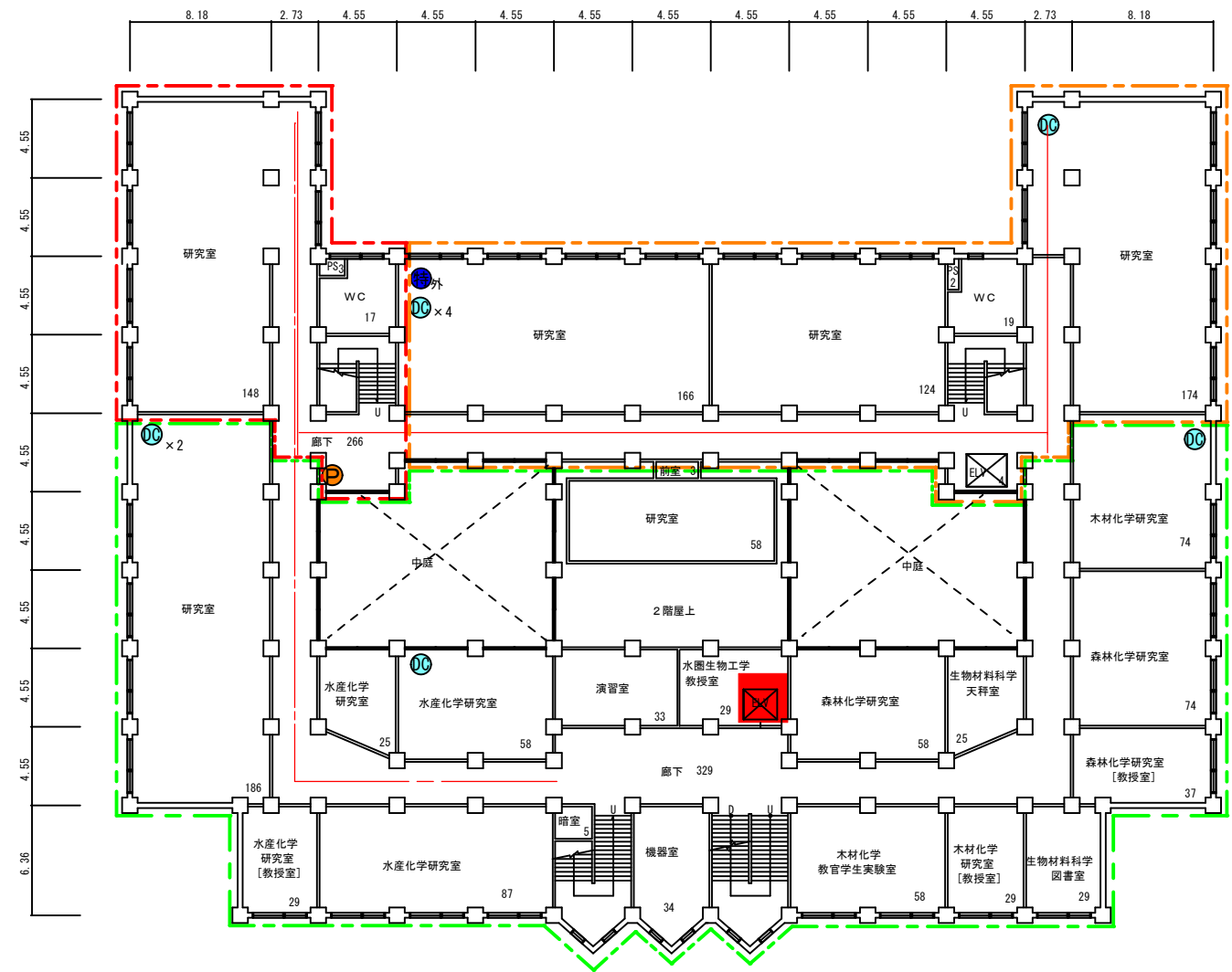
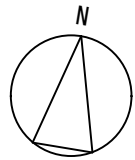
事業名	東京大学（本郷）農学部2号館改修	2階平面図（改修後）	S=1/400
-----	------------------	------------	---------



- I 期範囲
- II 期範囲
- III 期範囲

農学部2号館3階平面図 2,183㎡

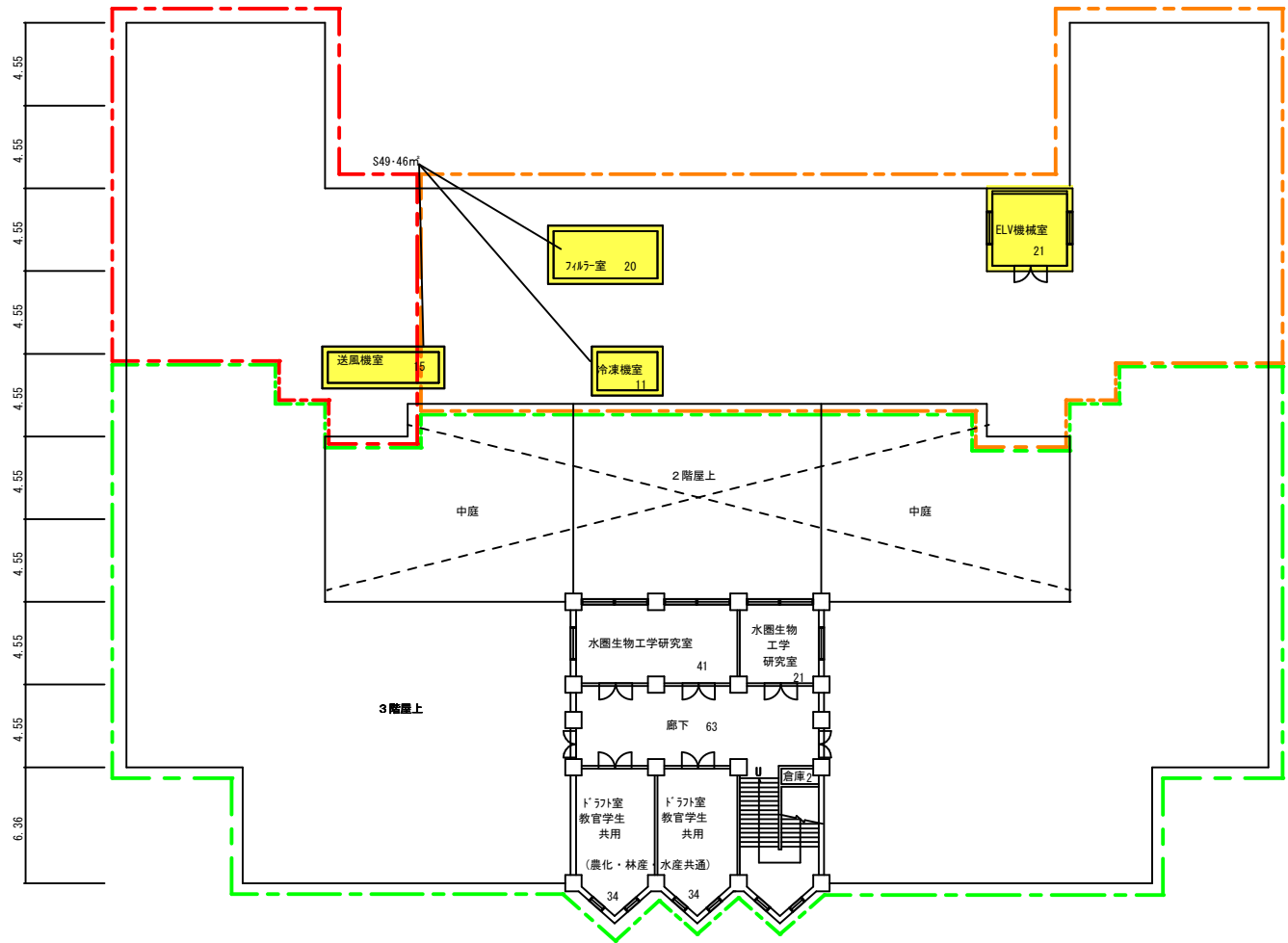
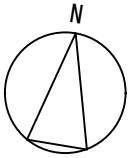
事業名	東京大学（本郷）農学部2号館改修	3階平面図（改修前）	S=1/400
-----	------------------	------------	---------



- : I 期範囲
- : II 期範囲
- : III 期範囲

農学部2号館3階平面図 2,183㎡

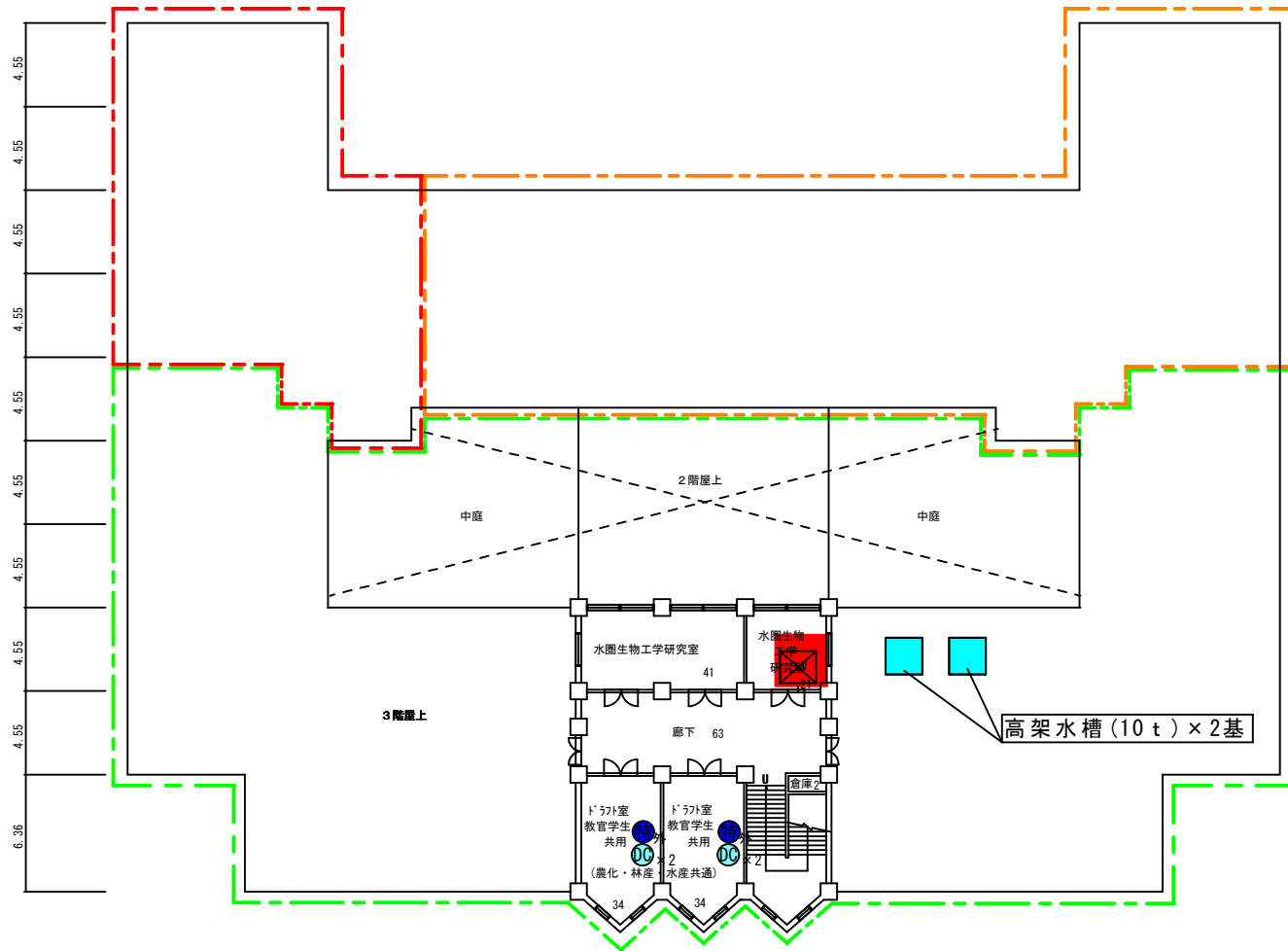
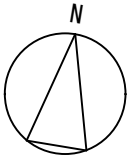
事業名	東京大学（本郷）農学部2号館改修	3階平面図（改修後）	S=1/400
-----	------------------	------------	---------



- : I 期範囲
- : II 期範囲
- : III 期範囲

農学部2号館4階平面図 262㎡

事業名	東京大学（本郷）農学部2号館改修	4階平面図（改修前）	S=1/400
-----	------------------	------------	---------



- I 期範囲
- II 期範囲
- III 期範囲

農学部2号館4階平面図 195㎡

事業名	東京大学（本郷）農学部2号館改修	4階平面図（改修後）	S=1/400
-----	------------------	------------	---------